

12-e 一生後1カ月乳児のヘパプラスチンテスト によるスクリーニング

神奈川県立こども医療センター

研究協力者 長尾 大・花田 良二
大崎 逸郎

神奈川県立母子保健センターにおいて、1カ月健診の際に行なったヘパプラスチンテストの結果を報告する。

対象は昭和56年の1月から12月までの1年間に出生した、出生体重2,500g以上の1,028例である。正常新生児群、光線療法群、K₂シロップ経口投与群の3群に分け、さらにそれぞれを栄養法によって、母乳、混合、人工の3つに細分した。3群の間で重複はなく、帝王切開例、重症仮死例、抗生剤投与例は除外した。

ヘパプラスチンテストは、Fibro Systemを用いた機械法により行なった。

<結果>

- 1) 正常新生児群……母乳栄養児（以下母乳）平均±1SD 81.6%±24.5%（440例）、混合栄養児（以下混合）83.5%±26.5%（420例）、人工栄養児、（以下人工）82.0%±19.8%（51例）、栄養法による有意差は認められない。
- 2) 光線療法群……母乳77.3%（21例）、混合72.7%±27.8%（32例）、人工75.8%±17.1%（5例）、栄養法による有意差は認められない。なお光線療法群全体では、74.6%で、正常児群全体の82.5%よりも低値だったが、有意差は認められない。
- 3) K₂シロップは日令4および6に3mgないし4mgを経口投与……母乳74.7%±32.7%（34例）、混合67.8%±15.3%（21例）、人工59.3%±13.0%（4例）。栄養法による有意差は認められない。K₂投与群全体では、71.2%で正常児群全体の82.5%と比べて有意に低値だった。しかし、K₂投与は7・8月のK₂非投与正常児群96例と比較したところ有意差は認められなかった（正常児群75.2%）。

<まとめ>

- ① 1,028例の成熟新生児に対し、生後1カ月にヘパプラスチンテストを行なった。平均値は従来の報告より高目だった。この理由は目下検討中である。
- ② 栄養法による差は認められない。
- ③ 日令4と6のK₂シロップ2回投与では、1カ月の時点で、ヘパプラスチンテストが非投与群よりも高い結果は得られなかった。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



神奈川県立母子保健センターにおいて、1 ヶ月健診の際に行なったへパプラスチンテストの結果を報告する。

対象は昭和 56 年の 1 月から 12 月までの 1 年間に出生した、出生体重 2,500g 以上の 1,028 例である。